

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201981		
法人名	社会福祉法人 七峰会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	〒036-8255 青森県弘前市若葉2丁目15		
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症緩和活動を毎日一人ひとりの能力に合わせて実施している。歩行訓練も一人ひとりの状態に合わせて実施し、下肢の筋力低下防止に努めている。様々なことに対し、個別での対応を意識して取り組んでいる。地域の方との交流が徐々に多くなり、馴染みの関係が築かれてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス事業所として、地域住民に参加していただき交流を図る「コミュニティカフェ」をホームで毎月開催し、地域住民の集いの場となっている。地域の行事である「夏祭り」「敬老会」「旅行」「餅つき大会」「体操教室」等に積極的に参加し、ホーム外でも地域住民との交流を行っている。地域にはなくてはならないホームとして、地域の拠点となり機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室と各ユニットに掲示している。毎朝の申し送り時に暗唱しており、共有し、意識している。	「1. 一人ひとりの個性が活かされ、安心して暮らせるように支援する。2. 地域社会の一員として共に生きていけるよう支援する」という理念が記載されたカードを常に携帯し、日々の理念を反映させたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや敬老会、旅行、餅つき大会、体操教室等に利用者様と一緒に参加している。コミュニティーカフェわかばに参加された方々との交流を深めている。	コロナ禍前は毎月コミュニティーカフェを開催しており、毎回10名程度の幅広い年齢層の参加があり、地域住民の集いの場となっている。民生委員や町内会長は運営推進会議のメンバーにもなっており、ホームの活動について理解していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて利用者様との関わりを持つ機会が増えている。コミュニティーカフェわかばで認知症に関連する内容を講義し、参加してもらうことで理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、運営推進会議が開催できていないが、電話での情報交換やホームでの活動報告を文章で関係者の皆様に報告している。	コロナ禍前は、2ヶ月に1回運営推進会議を開催していたが、今年度は開催できていなく、電話や郵送でのやり取りを実施している。会議では活発な意見が出されており、今後のサービス向上に繋がるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響により、必要に応じてお互いに電話で連絡を取り合っている。ホームでの活動を広報誌で知らせる等、継続して関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ禍前は、運営推進会議には必ず市の職員が参加していた。今年度については、運営推進会議の開催はないが、電話等でその都度連絡を取り合い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を新たに作成している。ホーム内での研修を実施している。身体拘束対策委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を実施している。身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。夜間以外は施錠をしていない。	身体拘束に関するマニュアルの整備や内部研修の定期的な開催により、全職員で身体拘束による身体的・精神的弊害について、理解を深めるように努めている。身体拘束は行わないという基本姿勢ではあるが、やむを得ず身体拘束を行う場合には、ご家族等の同意のもと、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で研修を実施し、虐待について学習している。虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での研修で学ぶ機会を設け、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容と重要事項説明書の内容を説明している。納得をしていただいてから契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にはこちらから近況を報告し、意見等を聞いている。玄関には意見箱を置いている。	日頃から利用者一人ひとりの顔色や表情等に目配りし、注意深く反応を見ながら意見等を察する取り組みが行われている。ご家族からの意見や苦情についても、気軽に職員へ話していただけるような関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	引き継ぎや午後のミーティング、グループホーム会議等で意見や提案を聞く機会を設けており、意見交換し、反映させている。	職員会議のほか、毎日午後にはミーティングを行っており、普段から気兼ねなく職員同士が何でも話せる関係作りを意識している。職員の異動については法人全体で行っているが、利用者と職員の馴染みの関係が保てるように、利用者への影響が少なくなるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握し、努力を認め、やりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や経験等を把握し、研修の機会を設けている。また、受けたい研修は申し出してもらい、研修を受ける機会を得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の施設と交流の機会を設けている。また、実習生の受け入れを行い、活動を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から利用者様が困っていることや不安なこと等、要望を聞くようにしている。生活の中での様子を観察し、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から御家族様が困っていることや不安に思っていることを聞き、情報収集をして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に利用者様と御家族様から、そのとき必要な支援を見極め、確認している。職員間で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯干し、洗濯たみ等を利用者様と職員が一緒に行っている。食事の準備や片付けも一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルスの影響により面会の機会が減っているため、受診や状態変化等をこまめに電話で連絡をしている。お互いに相談をしながら利用者様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が入居前から通っていた病院や美容院に出かけ、これまでの馴染みの方との関係が継続できるようにしている。	入居前からの情報や日々のコミュニケーションで得られた情報を職員間で共有し、把握するよう努めている。家族からの電話の取り次ぎを支援する等、これまで関わってきた人との交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、会話や活動ができるように配慮している。手伝いを一緒に行ったり教え合う場面が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を大切にしている。必要に応じて他の施設への住み替えへ等の相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの訴えや希望を丁寧に聞き取り、納得のいくように努めている。普段から表情の観察をして、意思表示の困難な方でも利用者様本位になるように検討している。	利用者との日々のケアを通じたコミュニケーションの中から思いをくみ取るように努めている。必要に応じて、家族等や関係者からも情報収集を行い、全職員で情報を共有し、より良いケアに繋がるよう取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や御家族様より、これまでの生活について聞き取りをしている。普段の会話から回想する等、一人ひとりの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで、一人ひとりの状態を確認している。活動等は一人ひとりの状態に合わせて支援できるように職員間で情報共有し、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や御家族様の意向を確認している。主治医や看護師からの助言も含め、職員間で意見交換を行い、反映させた介護計画を作成している。	介護計画作成時は、利用者と家族の意見、日頃ケアに当たっている職員の気付き等も反映させた介護計画となるように努めている。利用者の希望や身体状況に変化がないか、常に良く観察し、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子や気づき等を記録し、職員間で情報を共有している。状態の変化等により課題が上がったときには、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族様と相談し、状況に応じて受診や外出、活動等、一人ひとりに必要な支援をするように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方や民生委員との関係作りに努めている。町会の行事には参加して、利用者様が楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や御家族様の希望を確認し、かかりつけ医との関係を大切に受診を支援している。	入居前からの情報を基に、利用者のご家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。医療機関の受診時は、新型コロナウイルス感染症対策として、ご家族の同意を得て、ホームの職員のみで対応することとしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には日常の情報を定期的に伝えている。相談したり受診の報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは、安心して治療と早期退院ができるように、ご家族様や医療機関と情報交換や相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ホームで対応できることを入居時に説明している。状態の変化時等は、都度御家族様に報告している。	利用者の重度化や終末期の対応については、入居時にホームでできることを文書等で説明し、事業所の方針を明確にしたうえで、ご家族等の同意をいただいている。重度化した場合は、利用者の身体状況にあった機関等へ引き継ぐ等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを基に内部研修を実施している。また、事故後には原因と対策を検討し、事故防止に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に内部研修を実施している。年2回の避難訓練では、町会の方にも参加していただいております。協力体制を築いている。	例年、年2回避難訓練を行っており、うち1回は夜間を想定した内容で行っている。コロナ禍後は職員のみで実施している。災害発生時に備えて、厨房の貯蔵室へ非常食や飲料水等1週間程度分保管している。敷地内には、同法人の関係施設もあり、いざというときには協力を得られる体制となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を把握し、表情や言動を観察しながら、誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いや対応に配慮している。	利用者の尊厳を大事にし、まずは利用者の話を傾聴するようにしている。声掛けの際は羞恥心に配慮して耳元でささやく等、一人ひとりの身体状況に合わせた対応を心掛けている。利用者への声掛けや対応で気になる点は、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がやりたいこと、外出したい場所等をいつでも話せるような環境作りに努めている。会話の中でも希望を話せるように、職員が穏やかな表情で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、自己決定できる環境を作っている。その日の過ごしたい希望に沿うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに配慮し、利用者様が笑顔で過ごせるような洋服の選択をできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。利用者様の好みを把握し、月2回、職員と一緒に食事を作る機会を設けている。	献立は法人の管理栄養士が作成している。利用者の身体状況に合わせ、キザミ食やトロミをつける等の対応をしている。苦手な食べ物等には、代替品を提供している。月2回、利用者の希望を取り入れたメニューと一緒に作る機会があり、利用者大変喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には法人施設の管理栄養士が立てた献立の提供をしている。食事摂取量や水分摂取量の把握し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアをしている。毎月、歯科医師より助言を受け、助言内容を確認して取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、失敗を減らせるように支援している。尿取りパッドは使用しているが、おむつは使用していない。トイレで排泄ができるように支援している。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンによるトイレ誘導を行っている。入所時におむつ利用の方であっても、トイレ誘導をしてトイレでの排泄を促し、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力排便の取り組みとして、起床時に冷水・冷乳を提供している。一人ひとりに合わせた運動や水分摂取状況を把握し、排便リズムが整うように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴を楽しむことができるように、タイミング等に配慮している。希望に合わせて時間帯も工夫している。	入浴は週3回行っており、時間帯や入浴方法等、できる限り利用者の意向に沿ったものになるように努めている。入浴を拒否される利用者については、無理強いせず、声掛けの工夫や時間を空けたりして、可能な限り入浴できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に合わせて、休みたいときに静養時間を設けている。一人ひとりの生活習慣や状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師、看護師から説明を受け、服薬による状態の変化等の報告や説明をしている。変更があった際は、薬の説明書を見て再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、持っている力を活かせるよう役割や趣味活動への支援をしている。散歩を日課とし、日々外の空気や景色を楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にできるだけ沿った外出計画を立てている。外出時には、買い物や軽食をする等、個別の支援をしている。町会の行事には利用者様や御家族様に確認して参加している。	コロナ禍で外出できない日が続いているため、普段からホームの周辺を散歩したり、敷地内にある畑を見に行く等、利用者が気分転換できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様や御家族様と相談して、一人ひとりの希望や能力に応じて少量のお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に手紙を書いたり、希望時に電話をする支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ち、温度と湿度を調整して不快や混乱をまねくことのないように配慮している。季節感を感じられるように、ホールや廊下には季節に合った作品を装飾している。	ホールには大きなテーブルがあり、テーブルを囲んでテレビを見たり、会話を楽しんだり、ゆったり落ち着いた雰囲気でも過ごしている。ホームの各所に温度計と湿度計を設置しており、利用者がいつでも快適に過ごせるように調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話を楽しんだり、一緒に活動に参加している。一人で趣味活動を行う利用者様がいるため、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様や御家族様と相談し、馴染みのある物を置き、居心地よく過ごせるように配慮している。	入居時にはできるだけ自宅で愛用していたものを持ってきていただくよう声掛けしている。一人ひとり自分に合った居室作りをおこなっており、安心安全に過ごすことができるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には文字で表示し、居室には本人がわかるような目印を付けたりしている。安全に移動ができるように配置配慮している。		